

少年

第440号(1) 令和4年11月(霜月)発行



山梨県警察本部
生活安全部 少年・女性安全対策課
甲府市丸の内1-6-1
055-221-0110 内線3082
少年対策官 北原 宏明

「秋の夜長」は・・・

ここのところ気温が下がり、木々は色づき、五感で秋の深まりを感じるようになりました。また「秋の日はつるべ落とし」と言われるように急速に日の入り時刻が早まっています。甲府の日の入り時刻は9月1日には18:13だったのが10月1日は17:30となり、11月1日には16:51となります（国立天文台のデータより）。11月に入ると16時台には太陽が沈んでしまうのです。1日の中で交通事故が多く発生する時間帯は、日の入りごろの暗くなり始める頃です。この時期は帰宅時間にはすでに外が暗くなり始めているという方もいると思います。交通事故に遭わないためにも家路につく際には、早めに自動車や自転車のライトを点灯するよう心がけましょう。また、歩行者や自転車利用者は明るい色の衣服や反射材を身につけるなどして、自動車に自分の居場所を伝えるように心がけましょう。



日の入り時刻が早まるということは、夜が長くなるということでもあります。みなさんは「秋の夜長」をどのように過ごしているのでしょうか。ICTが発達した現在、スマートフォンやタブレットを操作して過ごしているという方も多いかと思いますが、10月27日～11月9日（文化の日前後2週間）は「読書週間」と定められています。この秋の夜長、スマートフォンを本にもちかえてみてはどうでしょうか？

どんな本を読んだらいいのかわからない、なかなか本を読むきっかけがないから読書をしないという方もいるかもしれません。そんな方は、山梨県出身作家の作品をまずは読んでみてはいかがでしょうか。現在、若手人気作家として高い評価を得ている辻村深月さんは山梨県笛吹市の出身で石和中学校の卒業生です。辻村さんは、2004年に「冷たい校舎の時は止まる」で作家デビューし、2012年には「鍵のない夢を見る」で第147回直木賞を受賞しました。その後も2018年に「かがみの孤城」（アニメとして映画化され、12月23日全国公開されます）で第15回本屋大賞を受賞するなど現在大活躍中です。読書のきっかけとして、ここに挙げた辻村さんの作品を手にとってみてはどうでしょうか。

日本に文学を広めることに貢献した村岡花子さんの翻訳した作品を読書のきっかけにしてもいいと思います。村岡さんも山梨県出身で山梨英和女学校（現在の山梨英和中学・高等学校）で英語の教師をしていたこともあります。カナダの作家であるルーシー・モード・モンゴメリが書いた「赤毛のアン」を翻訳したことで全国的に知られています。また、道徳の教科書にも題材として取り上げられており、NHKの連続テレビ小説「花子とアン」でも取り上げられました。村岡さんの人生は困難の連続で、関東大震災で被災し、夫の経営する印刷会社と工場を失い、その3年後には当時5歳の息子が病気になり突然亡くなってしまおうという悲劇に見舞われ奈落の底に突き落とされました。それでも、「日本の愛すべきたくさん子どもたちの心が豊かになる家庭文学を翻訳して届けることこそ自分がやるべきことだ」と立ち上がり、その困難を乗り越え英語の作品を翻訳して出版したのです（「新中学生の道徳 明日への扉1」学研より）。「赤毛のアン」をすでに読まれたことのある方も、こういった村岡さんの背景を知った上でもう一度読み返してみるとまた違った発見があるかもしれません。

先日、4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果から少し気になるデータを目にしました。それは、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」という質問に対して、10分以下またはまったくしないと回答した小学生は37.4%、中学生は42.9%、「新聞を読んでいますか」という質問に対して、月1回またはまったく読んでいないと回答した小学生は85.9%、中学生は88.9%（山梨県内公立学校の児童・生徒の割合）というものです。

このところのICTの急速な発達もあり、子どもたちだけではなく社会全体で「読書離れ」や「活字離れ」が進んでいるように感じます。作家の浅田次郎さんはエッセイの中で「小説には具体的な強制力がなく、自分勝手な思考と想像が可能だ。小説に限らずあらゆる文学は人間の想像力を涵養する。そして、想像は創造の母である。人間が文学を非生産的なものとして軽侮すれば、想像力は衰え、あらゆる文化は新たな創造ができずに停止し、退行してしまう。『読書離れ』の真の弊害はこのように重大なものだと思われる。」（「竜宮城と七夕さま」小学館より）と述べています。秋の夜長、読書をすることで本の世界に入り込み、さまざまな想像力を働かせてみてはどうでしょうか。



発行番号は昭和61年初号からの通算番号です。

http://www.pref.yamanashi.jp/police/p_syonen/shonenkoho.html

第62回 山梨県中学生交通安全弁論大会

10月27日(木)、「はくばく文化ホール(富士川町)」において、「第62回山梨県中学生交通安全弁論大会」が3年ぶりに開催されました。出場者は、県下警察署管内の地区大会の代表者12名と前回大会の優勝校である甲陵中学校の代表者及び開催協力校である増穂中学校の代表者の計14名でした。出場者は交通安全について、日頃考えていることや自らの体験をもとに、「中学生としての視点から、その大切さを訴えました。発表内容は、「論旨のわかりやすさ」「表現の適切さ」「発表の態度」という観点で審査されました。審査の結果、森本薫さん(甲陵中2年)が優勝しました。どの発表も甲乙付けがたい素晴らしい内容でした。14名の発表者には心より拍手を送りたいと思います。

心の可視化

北杜市立甲陵中学校 2年
森本 薫さん

「危ない！」一瞬命の危険を感じた。

ある日は信号機のない横断歩道を渡ろうとしていた。自動車がよく往来していてなかなか渡れずイライラしていた。ふと車の流れが途切れた。今がチャンス！そう思い一步を踏み出した。だが、その瞬間、左側から猛スピードで車が走ってきた。同時に踏み出した足を慌てて引っ込めた。遠くに走り去る車に向かい「危ないだろう。」と吐き捨てた。家に帰り母に話した。母は「道路は歩行者のためにあるのではないよ。」と悲しそうに言った。私は母の言葉を受けて、安全確認をもっとしっかりすべきだったと思った。それと同時に交通安全について知りたくなった。

私は一時停止をどのくらいのドライバーが守っているのか調べてみた。2021年のある調査によると山梨県は51.9%のドライバーが停止しているという結果だった。全国でベスト3だ。ドライバーには減速義務や停止義務がある。それなのに、全国平均で7割の車が停止しない。横断歩道の危険性について改めて実感して、恐ろしくなった。

また、歩行者が危険な横断で事故に遭う場合も見られる。横断歩道以外の場所の横断。斜め横断。走行する自動車の直前の横断。法令に違反した歩行者の事故も多く発生している。横断歩道でも確実に道路を渡れる訳ではない。だから私達も気をつけなければならない。

横断歩道をもっと安全に渡る手段はないのか。私たち歩行者自身が自分を守る手段はないだろうか。そんな時父の話思い出した。30年前、私の父は、私と同じ道を通り私と同じ小学校に通っていた。当時は、家の近くの交差点に敬礼している警察官の人形が立っていたそうだ。その人形は、交通事故が起きないように、安心して通行できるようにとの願いを込めて設置されていた。また、私が中学1年生の時に学校の課題で北杜市の石仏を調べたことがある。交通安全を願うお地蔵様の中には危うく事故になりそうな時にお地蔵様の声で命拾いしたという逸話も残されている。

私が登校していた時は、もうその警察官人形はなかった。その代わりに地域の方々が横断歩道で私達を誘導してくれた。明るい声とともに、朝夕の登校時間に合わせて、地域の大人が私たちのために順番で見守っていた。

警察人形もお地蔵様も、地域の見守りをしている方々も、交通安全を願う心が表れたものだ。誰も交通安全を願う気持ちを持っている。しかし、何もしなければ心の中は見えない。私の心も相手には見えない。

では、横断歩道を渡る時はどうしたらよいのだろうか。

渡りたい気持ちを伝えるために手を挙げるのだ。分かっているにもかかわらず実行に移していないことだが、こうすればドライバーに道を渡りたいという歩行者の気持ちが伝わる。考えてみると、心を見えるようにすることが、交通安全につながる。夕方自分の居場所を伝えるために明るい服を着る、そして反射板を付ける。自転車に乗っている時はライトを早めに点灯させる。できることはいくらでもある。

自ら発信することが、かけがえのない命を守ることに繋がる。

地域の方の交通安全を願う心が形になった警察官人形。今、山梨県では富士川町など数少ない地域しか存在しない。しかし、私たち一人一人が交通安全の心が見えるように具体的に行動すれば、大切な日常が壊されずにすむ。交通ルールを守る、プラス、心を見える化する。このことを自分と周りのためにいつも心がけていこう。

《大会成績結果》代表者の皆さん、素晴らしい発表をありがとうございました。

賞	氏名	学校名(学年)	演題	
優勝	森本 薫	甲陵中学校(2年)	心の可視化	北杜
	浦田 漣	上野原西中学校(2年)	私たちが理由	上野原
準優勝	山田 智美	猿橋中学校(3年)	思いやりがつくる交通安全	大月
	土橋 璃子	三珠中学校(2年)	やさしさのバトンタッチ	鯉沢
優秀賞	角振 舞美	玉穂中学校(2年)	ほんのちょっとしたアクセント	南甲府
	中村 美優	白州中学校(3年)	運転者としての心構え	北杜
	石川 結楠	若草中学校(1年)	運転者と歩行者の思いやり	南アルプス
	関 満理子	英和中学校(3年)	父から受け継いだ交通安全意識	甲府
	小倉 莉緒菜	御坂中学校(2年)	命を守るために	笛吹
	志村 優風	増穂中学校(3年)	それぞれの場所から始める良い連鎖づくり	鯉沢
	水谷 花朋	敷島中学校(2年)	「他人事」から「自分事」に	甲斐
	久保川 美伶	山梨北中学校(3年)	目と心を合わせて防ぐ事故	日下部
	星野 葵	河口湖南中学校(3年)	守って示すおもいやり	富士吉田
	草場 珂奈	南部中学校(3年)	交通事故のリスクと原因	南部